

作成日 2022年10月1日

改定日

山本窯業化工株式会社

施工仕様書 「セラグラニーSi W」(単ガン仕様)

用途 住宅、マンション、事務所、店舗、学校、その他の建築物(新築・改修)の内外壁面。

適用下地 旧塗膜面、磁器タイル等の改修下地。コンクリート面、セメントモルタル面、プレキャストコンクリート部材、ALCパネル、その他各種板・ボード類等。

施工不可部位 天端(笠木・手すり・セットバック等)や幅木、パラペットの施工は避けてください。

※ 本施工の前に必ず試験塗装を行い、希釈量(粘度)・塗付量(厚み)・色調等を確認し、標準見本が再現できるよう確認してください。

※ 表中の数値は標準状態および塗装面が平滑時の値です。施工時期・下地の形状・状態により、多少の差異を生じる事があります。間隔時間は気温23℃(湿度50%)の場合ですが、低温・高温等で乾燥条件が悪い環境の場合は間隔時間を長めにとってください。

【シングル目地】 単ガンによる施工(厚み2.0~2.5mm)

| 工程 | 使用材料名と調合割合 | 所要量 (kg/m ²) | 使用器具 | 回数 | 間隔時間 |
|----|---|--|--|-----|--------|
| 1 | 下地調整 | ・新設下地の場合、補修・清掃を実施した上、必ず下地の種類に応じたシーラー処理をしてください。 ・改修の場合、旧塗膜の状況や素地の状態に応じ、必要な処理および下地調整をしてください。 (脆弱塗膜の除去、水洗(24時間以上乾燥)、補修、シーラーや下地調整塗材塗布など) | | | |
| 2 | 目地着色 目地着色材 20kg 清水 0~2kg | 0.15~0.4 | ・リシンガン、万能ガン 口径:4mm 圧力:390~590KPa ・ウールローラー | 1~2 | 24時間以上 |
| 3 | 墨出し | 設計や元請の指示に従い目地割りし、水盛、下げ振り、またはトランシットを使用して墨出します。 | | | |
| 4 | 目地棒貼付 | 目地棒を墨出しに沿って、正確に貼り付けます。 | | | |
| 5 | 捨吹き セラグラニーSi W(A材) 20kg 清水 0~1.0kg | 0.5~0.7 | ・リシンガン、万能ガン 口径:5~6mm 圧力:490~590KPa | 1 | 3時間以上 |
| 6 | 下吹き セラグラニーSi W(A材) 20kg 清水 0~1.0kg | 3.0~3.5 | ・タイルガン 口径:6~10mm 圧力:490~590KPa | 1 | 追い吹き |
| 7 | 模様吹き セラグラニーSi W(B材) 20kg 清水 0~1.0kg | 0.5~0.7 | ・タイルガン 口径:6~10mm 圧力:290~590KPa | 1 | 追い吹き |
| 8 | 戻し吹き セラグラニーSi W(A材) 20kg 清水 0~1.0kg | 0.4~0.6 | ・タイルガン 口径:6~10mm 圧力:290~590KPa | 1 | 0~10分 |
| 9 | 離形紙取り | 主材表面が乾燥する前に目地棒上部の離形紙を取り除きます。 | | | |
| 10 | 押え | 主材表面の水分がなくなる頃に、凸部をウールローラーで軽く押さえます。 | | | |
| 11 | 目地棒除去 | 24時間以上乾燥後、目地棒を取り除きます。 | | | |

【江戸切目地】 単ガンによる施工(厚み4.0～4.5mm)

| 工程 | 使用材料名と調合割合 | 所要量 | 使用器具 | 回数 | 間隔時間 | |
|----|------------|--|----------|--|------|--------|
| 1 | 下地調整 | ・新設下地の場合、補修・清掃を実施した上、必ず下地の種類に応じたシーラー処理をしてください。 ・改修の場合、旧塗膜の状況や素地の状態に応じ、必要な処理および下地調整をしてください。 (脆弱塗膜の除去、水洗(24時間以上乾燥)、補修、シーラーや下地調整塗材塗布など) | | | | |
| 2 | 目地着色 | 目地着色材 20kg 清水 0～2kg | 0.15～0.4 | ・リシンガン、万能ガン 口径：4mm 圧力：390～590KPa ・ウールローラー | 1～2 | 24時間以上 |
| 3 | 墨出し | 設計や元請の指示に従い目地割りし、水盛、下げ振り、またはトランシットを使用して墨出します。 | | | | |
| 4 | 目地棒貼付 | 目地棒を墨出しに沿って、正確に貼り付けます。 | | | | |
| 5 | 捨吹き | セラグラニー-Si W(A材) 20kg 清水 0～1.0kg | 0.5～0.7 | ・リシンガン、万能ガン 口径：5～6mm 圧力：490～590KPa | 1 | 3時間以上 |
| 6 | 下吹き | セラグラニー-Si W(A材) 20kg 清水 0～1.0kg | 3.0～3.5 | ・タイルガン 口径：6～10mm 圧力：290～590KPa | 1 | 追い吹き |
| 7 | 模様吹き | セラグラニー-Si W(B材) 20kg 清水 0～1.0kg | 0.5～0.7 | | 1 | 追い吹き |
| 8 | 戻し吹き | セラグラニー-Si W(A材) 20kg 清水 0～1.0kg | 0.4～0.6 | | 1 | 0～10分 |
| 9 | 離形紙取り | 主材表面が乾燥する前に目地棒上部の離形紙を取り除きます。 | | | | |
| 10 | 押え(目地部) | 主材表面の水分がなくなる頃に、2段目の目地部をウールローラーでしっかり押さえます。 | | | | |
| 11 | 目地棒貼付 | 24時間以上乾燥後、目地棒を目地部に貼り付けます。 | | | | |
| 12 | 下吹き | セラグラニー-Si W(A材) 20kg 清水 0～1.0kg | 3.0～3.5 | ・タイルガン 口径：6～10mm 圧力：290～590KPa | 1 | 追い吹き |
| 13 | 模様吹き | セラグラニー-Si W(B材) 20kg 清水 0～1.0kg | 0.5～0.7 | | 1 | 追い吹き |
| 14 | 戻し吹き | セラグラニー-Si W(A材) 20kg 清水 0～1.0kg | 0.4～0.6 | | 1 | 0～10分 |
| 15 | 離形紙取り | 主材表面が乾燥する前に目地棒上部の離形紙を取り除きます。 | | | | |
| 16 | 押え | 主材表面の水分がなくなる頃に、凸部をウールローラーで軽く押さえます。 | | | | |
| 17 | 目地棒除去 | 24時間以上乾燥後、目地棒を取り除きます。 | | | | |

※ 押え以外でも吹放しで仕上げる事も可能です。ローラー押えの場合は、中毛ウールローラーで軽く押さえます。

※ 注意事項

- ・捨吹きはリシンガンで均一に吹付け、下地を完全に隠蔽してください。
- ・下吹きはセラグラニー-Si Wの基本となるため、均一に吹き付けるようにしてください。
- ・玉吹きはB材を用いて斑点ちらし吹きをしてください。ちらし吹きは2色吹きとなるようにA材に対して均一に斑のないように注意してください。
- ・戻し吹きはB材の斑点ちらし吹きによって生じた斑にA色を吹き付けて修正してください。
- ・斑点ちらし吹きはガンからの吐出量を一定にしたほうが仕上がりが良いのでA・B材の粘度は同一であることが理想です。清水加水の際にできるだけ粘度をあわせるようにしてください。
- ・双頭ガン仕様とは若干仕上がりが異なります。

施工仕様書 「セラグラニーSi W」(双頭ガン仕様)

用途 住宅、マンション、事務所、店舗、学校、その他の建築物(新築・改修)の内外壁面。

適用下地 旧塗膜面、磁器タイル等の改修下地。コンクリート面、セメントモルタル面、プレキャストコンクリート部材、ALCパネル、その他各種板・ボード類等。

施工不可部位 天端(笠木・手すり・セットバック等)や幅木、パラペットの施工は避けてください。

※ 本施工の前に必ず試験塗装を行い、希釈量(粘度)・塗付量(厚み)・色調等を確認し、標準見本が再現できるよう確認してください。

※ 表中の数値は標準状態および塗装面が平滑時の値です。施工時期・下地の形状・状態により、多少の差異を生じる事があります。間隔時間は気温23℃(湿度50%)の場合ですが、低温・高湿等で乾燥条件が悪い環境の場合は間隔時間を長めにとってください。

【シングル目地】 双頭ガンによる施工(厚み2.0~2.5mm)

| 工程 | 使用材料名と調合割合 | 所要量 (kg/m ²) | 使用器具 | 回数 | 間隔時間 |
|----|--|--|--|-----|--------|
| 1 | 下地調整 | ・新設下地の場合、補修・清掃を実施した上、必ず下地の種類に応じたシーラー処理をしてください。 ・改修の場合、旧塗膜の状況や素地の状態に応じ、必要な処理および下地調整をしてください。 (脆弱塗膜の除去、水洗(24時間以上乾燥)、補修、シーラーや下地調整塗材塗布など) | | | |
| 2 | 目地着色 目地着色材 20kg 清水 0~2kg | 0.15~0.4 | ・リシンガン、万能ガン 口径:4mm 圧力:390~590KPa ・ウールローラー | 1~2 | 24時間以上 |
| 3 | 墨出し | 設計や元請の指示に従い目地割りし、水盛、下げ振り、またはトランシットを使用して墨出します。 | | | |
| 4 | 目地棒貼付 | 目地棒を墨出しに沿って、正確に貼り付けます。 | | | |
| 5 | 捨吹き セラグラニーSi W(A材) 20kg 清水 0~1.0kg | 0.5~0.7 | ・リシンガン、万能ガン 口径:5~6mm 圧力:490~590KPa | 1 | 3時間以上 |
| 6 | 模様吹き セラグラニーSi W(A材) 20kg 清水 0~1.0kg セラグラニーSi W(B材) 20kg 清水 0~1.0kg | 3.2~4.2 | ・双頭ガン 口径:8mm 圧力:290~590KPa | 1 | 追い吹き |
| 7 | 戻し吹き セラグラニーSi W(A材) 20kg 清水 0~1.0kg | 0.4~0.6 | ・タイルガン 口径:6~10mm 圧力:290~590KPa | 1 | 0~10分 |
| 8 | 離形紙取り | 主材表面が乾燥する前に目地棒上部の離形紙を取り除きます。 | | | |
| 9 | 押え | 主材表面の水分がなくなる頃に、凸部をウールローラーで軽く押さえます。 | | | |
| 10 | 目地棒除去 | 24時間以上乾燥後、目地棒を取り除きます。 | | | |

【江戸切目地】 双頭ガンによる施工(厚み4.0~4.5mm)

| 工程 | 使用材料名と調合割合 | 所要量 (kg/m ²) | 使用器具 | 回数 | 間隔時間 |
|----|------------|--|--|-----|--------|
| 1 | 下地調整 | ・新設下地の場合、補修・清掃を実施した上、必ず下地の種類に応じたシーラー処理をしてください。 ・改修の場合、旧塗膜の状況や素地の状態に応じ、必要な処理および下地調整をしてください。 (脆弱塗膜の除去、水洗(24時間以上乾燥)、補修、シーラーや下地調整塗材塗布など) | | | |
| 2 | 目地着色 | 目地着色材 20kg 清水 0~2kg | 0.15~0.4 ・リシンガン、万能ガン 口径:4mm 圧力:390~590KPa ・ウールローラー | 1~2 | 24時間以上 |
| 3 | 墨出し | 設計や元請の指示に従い目地割りし、水盛、下げ振り、またはトランシットを使用して墨出します。 | | | |
| 4 | 目地棒貼付 | 目地棒を墨出しに沿って、正確に貼り付けます。 | | | |
| 5 | 捨吹き | セラグラニー-Si W(A材) 20kg 清水 0~1.0kg | 0.5~0.7 ・リシンガン、万能ガン 口径:5~6mm 圧力:490~590KPa | 1 | 3時間以上 |
| 6 | 模様吹き | セラグラニー-Si W(A材) 20kg 清水 セラグラニー-Si W(B材) 0~1.0kg 清水 | 3.2~4.2 ・双頭ガン 口径:8mm 圧力:290~590KPa | 1 | 追い吹き |
| 7 | 戻し吹き | セラグラニー-Si W(A材) 20kg 清水 0~1.0kg | 0.4~0.6 ・タイルガン 口径:6~10mm 圧力:290~590KPa | 1 | 0~10分 |
| 8 | 離形紙取り | 主材表面が乾燥する前に目地棒上部の離形紙を取り除きます。 | | | |
| 9 | 押え(目地部) | 主材表面の水分がなくなる頃に、2段目の目地部をウールローラーでしっかり押さえます。 | | | |
| 10 | 目地棒貼付 | 24時間以上乾燥後、目地棒を目地部に貼り付けます。 | | | |
| 11 | 模様吹き | セラグラニー-Si W(A材) 20kg 清水 0~1.0kg セラグラニー-Si W(B材) 20kg 清水 0~1.0kg | 3.2~4.2 ・双頭ガン 口径:8mm 圧力:290~590KPa | 1 | 追い吹き |
| 12 | 戻し吹き | セラグラニー-Si W(A材) 20kg 清水 0~1.0kg | 0.4~0.6 ・タイルガン 口径:6~10mm 圧力:290~590KPa | 1 | 0~10分 |
| 13 | 離形紙取り | 主材表面が乾燥する前に目地棒上部の離形紙を取り除きます。 | | | |
| 14 | 押え | 主材表面の水分がなくなる頃に、凸部をウールローラーで軽く押さえます。 | | | |
| 15 | 目地棒除去 | 24時間以上乾燥後、目地棒を取り除きます。 | | | |

※ 押えをしないで、吹放しで仕上げる事も可能です。ローラー押えの場合は、中毛ウールローラーで軽く押さえます。

※ 注意事項

- ・捨吹きはリシンガンで均一に吹付け、下地を完全に隠蔽してください。
- ・下吹きはセラグラニー-Si Wの基本となるため、均一に吹き付けるようにしてください。
- ・玉吹きはB材を用いて斑点ちらし吹きをしてください。ちらし吹きは2色吹きとなるようにA材に対して均一に斑のないように注意してください。
- ・戻し吹きはB色の斑点ちらし吹きによって生じた斑にA色を吹き付けて修正してください。
- ・斑点ちらし吹きはガンからの吐出量を一定にしたほうが仕上がりが良いのでA・B材の粘度は同一であることが理想です。清水加水の際にできるだけ粘度をあわせるようにしてください。